

カトリック山形教会報 かすみ

カトリック山形教会報

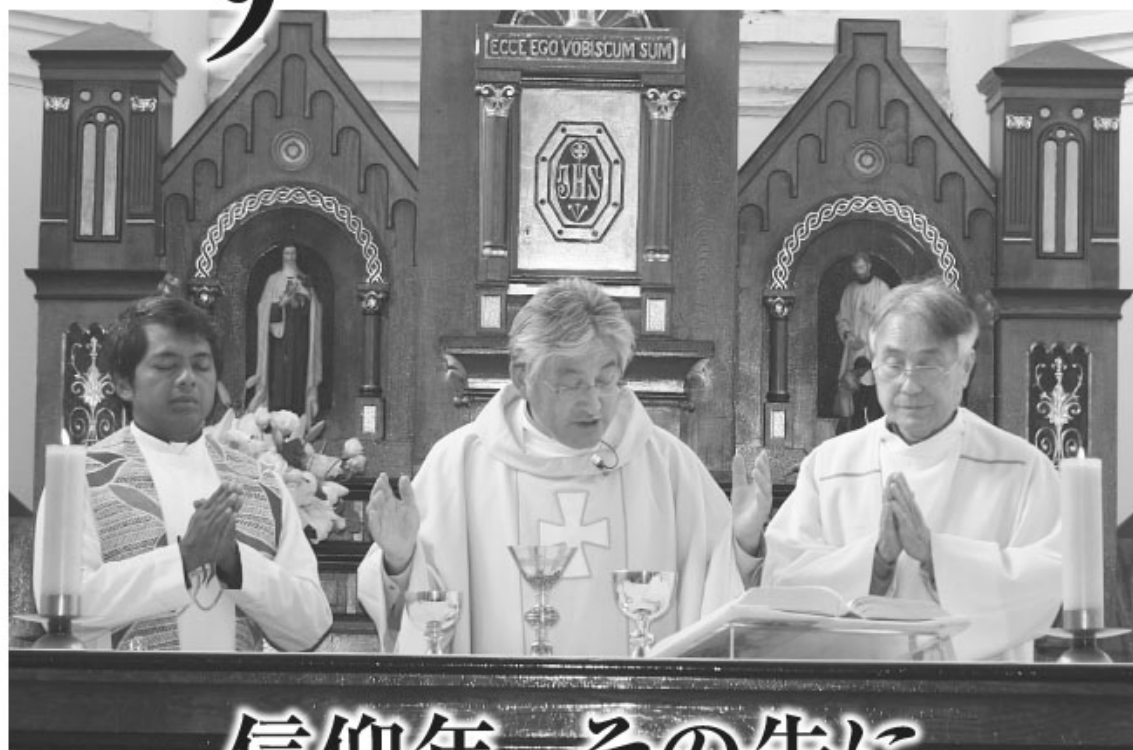
11

2013.11.24



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



信仰年—その先に

11月3日(日)、鶴岡教会を会場に「信仰年における山形地区信徒の集い」が開催されました。山形県内の各教会から100名を超える信徒が集まり、ミサ、分かち合い、そして聖体賛美式が行われました。山形教会からも30名が参加し、約一年間の「信仰年」における各教会の取り組みと抱えている問題点などに耳を傾けました。

新潟教区の「信仰年」は、他教区より一足早い、昨年の10月7日、新潟教区創立100周年の記念ミサで始まりました。

私たち一人ひとりが、新たな100年に向けて「私の宣教宣言」を誓った時からすでに一年が過ぎ、11月24日の「王であるキリストの主日」をもって終わろうとしています。この一年みなさんが誓った「宣教宣言」は実践できたでしょうか。この誓いは信仰年が終わったからといって、なくなるものではない心に刻まれた誓いです。そして、各教会が「信仰年」に取り組んだ活動もさまざまありました。

今回、山形県地区信徒の集いに出席できなかった方のために、分かち合いで報告された各教会の取り組みと今後の活動を紹介します。

◎山形教会

新潟教区100周年を迎えるために始めた「分かち合い」

を信仰年にも継続して行い、オタワ愛徳修道女会のシスターからは、自らの体験を通しての「召命」について、山形教会を支えてこられた2人の信者からは、「元気に生きる秘訣」として、これまでの信仰生活の話の聞き、分かち合いを行いました。

今年1月からオタワ愛徳修道女会シスターの協力で「主のみことば」をより深く味わうために「みことばに親しむ会」を毎月行ない、4月からは求道者や洗礼を受けて間もない方でも一緒に祈りができる「歌でつづる夜の祈り」が新たな取り組みとして加わり、言葉から得られる信仰の恵みをいただきました。

今後の課題としては、年々高齢化が進む教会での信徒の活動について考え直す時期にきていることを感じ、各種活動への参加や行事のやり方、役割分担の工夫をしてい



スタンドグラスを通して、やわらかい光が注ぐ、ミサ前の鶴岡教会聖堂内。



本間神父はミサ後フィリピンに向かうため、成田空港へ行かれました。



聖堂前で、各教会のゲストを出迎えられるワルヨ神父。



「信仰年」の取り組みを発表される各教会の代表者。



それぞれの教会が独自の取り組みを報告しました。



ワルヨ神父による聖体賛美式で終了した信徒の集い。

くことが急がれます。また、若年層の減少の中での青少年の育成も大きな課題となっています。

◎酒田教会

「信仰年」に取り組む心構えとして2月17日のミサ後に出席者全員で「信仰の門」を輪読しました。

カトリックをより理解するため「カトリック教会のカテキズム」「カトリック教会のカテキズム要約」「カトリック教会の教え」「こころにひかりを」「いま聖書を学ぶ」の図書を新たに購入、貸し出しを行い、この一年各自が自由に学ぶことができるようにしました。

「信仰年」に関する講話をお聞きました。

菊地司教からは、教会の3つの務め(宣教と証し・典礼・奉仕)について心して実践していかなければならないこと。他者の話に耳を傾け、呼びかけに応えることができるよう、いつも心を開いていることの大切さ。教会としてどうあるべきかを学びました。ワルヨ神父からは、「ゆるしの秘跡」について、聖書のたとえ話からゆるしの秘跡の大切さと心構え「ゆるされた喜びを知ったものは、他者をゆるすことが大切なつとめ」ゆるしの輪が広がることの大切さを学びました。川又神父からは「信仰年」と「信仰」を、アッシジの聖フラン

シスコの生涯とフランシスコ教皇の生き方に重ね合わせ話され、「信仰年は終わることがない、一人ひとりが死ぬまで続くのです」「どんなに小さなものでも精一杯の信仰を持っていることが、すでに福音宣教につながっているのです」など信仰の指針となる言葉を教えていただきました。

独自の取り組みとして「分かち合い」を3月から9月まで毎月、計7回行い、聖書を通して感じたことや体験談に耳を傾け、尊重しあいながら共に過ごし、自分自身の信仰について見つめ直す大変有意義な時間でした。

◎新庄教会

今年で3年目を迎える新しい教会。信者の大半がフィリピン人ということもあり、本間神父をはじめ他教会からの協力をたくさんいただき感謝しています。これからも自分たちの教会をより良いものにするため頑張りたいと思います。

「信仰年」の取り組みのひとつとして、山口亮二さんのコンサートを開催しました。また、震災地の教会を訪問したり、多くの訪問客を招いたり、サマースクールの会場としてお手伝いことができました。

◎長井教会

「信仰年」にあたって感じることは、やすらかな日々のな

かで、ひと月に1回の川又神父のミサにあずかり、高齢者が多い長井教会のみなさんが助けあってお互いを気遣い、教会に足を運ぶ喜びを感じています。

◎米沢教会

「信仰年」の取り組みとして、7月14日に北山原で53名の福者顕彰ミサを開催し、約150名の信徒が集い、改めて現代にあっても殉教者たちの信仰生活に学び倣う大切さを教えられました。

米沢教会にとって、大きな試練を与えられた「信仰年」でした。かつて経験したことのない司祭不在の教会となったことです。任期途中での尋常ではない成田神父の異動に大きな衝撃を受けました。後任の本間神父の第一声、「今のままの米沢教会で良いのですか?」の言葉にさらに大きな衝撃を受けました。これまでも現況を変えていかなければと多くの人たちが感じながらも、真剣に向き合ってきたこと、あまりにも無関心だったこと、大事な時に勇気ある決断が出来なかったことなどに、まず自分たちが変わらなければいけないことを気づかせてくれた言葉でした。

信徒会会則の改正に着手し、一人ひとりの意見と能力が反映できる体制づくりを行い、代表者委員会を中心に少しづつ刷新を図り、成熟した共同体目指します。

◎鶴岡教会

「信仰年」のための臨時総会を開催しました。ベネディクト16世の自発教令「信仰の門」によれば、信仰年においては信仰の歴史をたどり直すことが必要とのことから、鶴岡教会の歴史と信徒の活動、市民や園など隣人への感謝すべきことを振り返り、現在の鶴岡教会の特色や問題点、今後の取り組みなどを話し合いました。

朝ミサ前の6時半から神父のすすめもあり、自主的に教会の祈りを始めました。当初は4人程度の参加者が10人ほどに自然にひろがりみせました。

天主堂を訪れる方々に少しでも御言葉に触れる機会をつくるため、御言葉が書かれている紙を聖堂入り口に置いて持ち帰ってもらい、宣教活動のひとつとしている。

カテキズムの講話の実施。不定期でミサ後15分程度の時間をとり、カテキズムの学び直しや幼児洗礼者に対する親のカテキズム教育を補う活動として、今後も継続したい。

75歳以上の方々に「105歳まで楽しく生きたい人の集い」を開催。祈りや歌、信仰生活、教会活動などの分かち合いの場になっています。

教会報「でりぶらんど」を通して「信仰体験を語る」を紹介。読む人に対する分かち合いや信仰表明の場となり、寄稿者が体験を思い出すことによる神への感謝の再確認の機会となっています。

各教会の「信仰年」における取り組みの報告後に、質疑応答が行われました。新庄教会以外ほどの教会も高齢化と信徒数の減少などの問題を抱えており、とくに教会墓地を持っていない長井教会は墓地の取得が目の前の現実問題として起こっている状況でした。信徒だけではなく司祭も確実に高齢化がすすむ中で、私たちはこれから先の「教会」について、「誰か」が「何か」をやってくれるのでは…という、他人事では済まない時がすぐ近くまで来ていることを真剣に考える機会を与えられた信徒の集いでした。（広報部 小林）

マリアさまの夢

ヨセフ、ゆうべ夢を見ました。よくわからないのですが、あの子の誕生祝いのような感じでした。夢の中の人たちは、一ヵ月半の間お祝いの準備をしていました。家を飾り、新しい服を買って、何度も買い物にでかけて、念入りに選んだ贈り物をたくさん買っていました。

でも、不思議なことに、その贈り物はあの子のためではないのです。

贈り物を綺麗な紙に包んで、木の下に置いていました。そう、ヨセフ、家の中に木がありました! その木を、キラキラ光る飾りで飾って、てっぺんには天使のような形のものがのせてありました。皆、笑って、幸せそうでした。お互いに贈り物をプレゼントし合っていました。

ヨセフ、でもあの子にはないのです。その人たちは、あの子を知りさえしないのではないかと思います。あの子の名前が人々の口にはのぼることはありませんでしたから。とても奇妙な感じがしました。

もし私たちのイエスがこのお祝いに行ったら、招か

れてもいないのに押しかけたような……。自分の誕生祝いに必要とされないなんて、なんということでしょう!

ただの夢でよかった。もし本当だったら、ヨセフ、なんと悲しいことでしょう。（作者不詳 / 佐倉 泉訳）

* * *

マリアさま、悲しまないでください。イエスさま誕生のお祝いの準備は私たちにとってとても楽しみで嬉しい日々なのです。お誕生日までの一ヶ月、聖堂にご像や花を飾り、お迎えする日を思いワクワクしているのです。誕生祝いの当日には、イエスさまを知っているわたしたちはもちろん、まだイエスさまを知らない方もござってろうそくを手に歌をうたい喜びをもってお迎えいたします。

マリアさまもヨセフさまも、その日、イエスさまと一緒にいらしてください。きっと あなたの御子イエスさまが どんなに私たちから愛され慕われているかがおわかりになると思います。私たちと共にお祝いの食卓を囲みましょう。

(マリー・ベルナデッタ K・K)

『待っている神』

最近、物忘れが激しいのです。顔は覚えていても、名前が出てこない。物を取ろうと立ち上がり、三歩歩くと忘れてしまう。その代り、嫌なことや恥ずかしいことなどが、ふっと思いついて出てくる場合があります。この前、夜中に目が覚めまして、昔のことが思い出されてきました。長い間、忘れていたことでした。

わたしが小学校2年生か3年生の時です。母親と一緒に駄菓子屋へ買い物に行きました。50年近く前の、昔の駄菓子屋さんです。缶の中におせんべいやかりんとう、飴などが入っていて、買うときはおばちゃんがとってくれるのです。その店に母親と二人で行きました。母親とおばちゃんと友人だったようで、長い間話していました。わたしは駄菓子屋の中をぐるぐるとまわっていました。見ると、缶の中に色々なものが入っています。ふと、目が釘づけになりました。色とりどりの飴が、きれいに入っていたのです。わたしはそれを見たとき、「きれいだな」と思うと同時に、「うまそうだな」とも思いました。

母親はおばちゃんと話をしていました。わたしはそっと手を伸ばして缶を開けて、きれいな飴玉を1個取り出し、口の中に放り込みました。飴の甘い味が、口の中に広がりました。しかし同時に、心に苦い味も広がったのです。飴が溶けたあと、飴の甘さは消えましたが、苦さは消えませんでした。1日たった後も苦い味は消えませんでした。「盗んだ」という罪の思い。子供心にも、そういうものがあつたのでしょう。次の日、学校に行くのがつらかったのです。友達と遊んでも楽しくありません。3日間、わたしは悶々としていました。3日目の夜、学校から帰ってきたとき、わたしは母親に盗みのことを言おうと思いました。でも、顔を見て言う勇氣はありませんでしたので、母親がお風呂に入っているときに、話しに行きました。

風呂の中、もやで霞む母親の背中が見えたとき、母親の背中に向かって言ったのです。「盗んだ」そう言ったのです。母親はしばらく黙っていました。黙った後、言いました。「わかった。もうするな」それだけでした。わたしはもっと叱られると思いました。もっと大きな声で何か言われると思いました。でもその声は悲しそうで、つらそうでした。「わかった。もうするな」言葉はそれだけだったのですが、その言葉は、わたしの心に深く響いた。母はわたしを載きもしなかったし、安易に許すとも言わなかった。今思うと母は、わたしの過ちを共に痛んでいたのだと思うのです。

人が癒されるのは、何によってなのでしょう。わたしの罪を共に痛んでくれる人がいる。そのことに気がついたとき、人は自分の罪を本当に悔いることができます。本心から、自



分の罪を改めようとする事ができるのではないかな、と思います。今日の福音で、イエス様に癒された10人の内9人は、神を賛美するために帰ってきませんでした。なぜ帰ってこなかったのか、いつも考えています。薄情だったのだろうか。恩知らずだったのだろうか。そうではないと思います。イエス様の癒し、ゆるしはさりげないのです。イエス様はいつまでも待ってくださいます。帰らなかった9人。それはきっと、癒されたことにも気づかない、イエスのさりげない愛に触れたのです。時々、イエスの愛、イエスの癒しに気がつくことができません。でも、その癒し、そのゆるしこそ、わたしたちの心の奥を変えてくれる癒しではないでしょうか。

わたしたちはどうでしょうか。わたしたちはイエスから癒されていますか。イエスからゆるされていますか。わたしたちはゆるされています。イエスから癒されています。でも、わたしたちもこの9人と一緒に、中々気がつきません。イエスのさりげない愛、さりげない癒しに、わたしたちは気がつかないで生きているのです。でも、イエスは待ってくださっています。わたしたちがいつか気がつくのを。そして、気がついたわたしたちは「イエス様ありがとう」と言えるだけではないのです。癒されたわたしたちは生き方が変わります。このことに気がつくことを、イエス様は求めておられるのではないかな、と思います。

わたしたちはまぎれもなく、気がついていない9人です。わたしたちが、気がつくことができますように。神に感謝を述べることができますように。そして何よりも、その癒しによって、わたしたちの生き方がほんの少しでも変わりますように。ごミサを通してわたしたち一人ひとりがそのことを神に願い、わたしたちの心をささげたいと思うのです。

(録音・構成 中村 遼)